環境５か年計画の取組事項とＳＤＧｓとの対応関係

環境５か年計画の取組事項とSDGsとの対応関係

環境５か年計画では、水道局が取り組んでいくべき重要課題を整理し、これに関係するSDGsから、４つの重要分野を特定しました。次いで、各重要分野における水道局のあるべき姿の実現に向け、４つの環境基本方針を定め、45の取組事項を設定しました。本計画における各取組事項の推進は、SDGsの達成につながっていきます。

また、各取組は、複数のゴールの解決に貢献するような相乗効果（シナジー効果）が期待できるものが多くあります。下表は、本計画の取組事項とSDGsとの関係を整理したものです。

水道局の環境施策と関わりの深いSDGs

	大気、水質の汚染を抑制し、人々の健康的な生活を確保する。
	持続可能な発展を促進するために必要な知識や技術等を習得できるようにする。
	全ての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する。
	持続可能なエネルギーの割合を拡大し、エネルギー効率を改善させる。
	強靭（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る。
	都市における環境負荷の低減や災害に対する強靭さを向上させる。
	持続可能な消費を行い、廃棄物の発生を大幅に削減する。
	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる。
	陸上活動による海洋ゴミ等の汚染を低減する。
	森林の持続可能な経営を促進するとともに生物多様性の損失を阻止する。
	効果的なパートナーシップを推進する。

※　表の内容は、目標・ターゲットの内容をもとに、水道局の取組例との対応が分かるように表現を変えて記載しています。

環境５か年計画の取組事項とSDGsとの対応関係

環境５か年計画の取組事項（45）				SDGs 3	4	6	7	9	11	12	13	14	15	17
脱炭素社会の実現に向けたCO₂排出量の削減	1　省エネルギー化の推進	1-1	省エネ型ポンプ設備の導入				○	○	○		○			
		1-2	直結配水ポンプ設備によるエネルギーの効率化				○	○	○		○			
		1-3	高効率機器への更新				○	○	○		○			
		1-4	スマートメータの導入				○	○	○		○			
		1-5	水道施設の整備に伴うエネルギーの効率化				○	○	○		○			
		1-6	効率的な水運用の推進				○		○		○			
		1-7	オフィス活動における使用電力量の抑制				○		○		○			
		1-8	常用発電設備の環境負荷低減				○	○	○		○			
	2　再生可能エネルギーの利用拡大	2-1	太陽光発電設備の導入				○	○	○		○			
		2-2	小水力発電設備の導入				○	○	○		○			
		2-3	再生可能エネルギー由来電力の調達				○	○	○		○			
	3　燃料転換・電化	3-1	水素の活用				○	○	○		○			
		3-2	ゼロエミッションビークル（ZEV）等の導入	○			○	○	○		○			
		3-3	環境に配慮した非常時対応	○			○	○	○		○			
	4　カーボンオフセット	4	水道水源林におけるJ-クレジット創出の取組			○			○		○		○	
	5　水道施設外における脱炭素化の促進	5	直結給水の推進	○			○		○		○			
循環型社会の実現に向けた持続可能な資源利用	6　廃棄物の抑制	6-1	浄水場発生土の有効利用						○	○	○			
		6-2	粒状活性炭の有効利用						○	○	○			
		6-3	建設副産物の有効利用						○	○	○			
		6-4	水道水源林で発生する木材の有効活用						○	○	○			
		6-5	オフィス活動における廃棄物の削減						○	○	○			
		6-6	太陽光パネルの適正処理				○		○	○	○			
		6-7	水道施設の長寿命化			○		○	○	○	○			

環境５か年計画の取組事項とSDGsとの対応関係

環境５か年計画の取組事項（45）				SDGs 3	4	6	7	9	11	12	13	14	15	17
循環型社会の実現に向けた持続可能な資源利用	7　ペーパーレス化の推進	7−1	オフィス活動における紙使用量の削減						○	○	○			
		7−2	請求書等のペーパーレス化						○	○	○			
	8　脱プラスチックの推進	8	プラスチック使用量の削減						○	○	○	○		
	9　水資源の有効利用	9−1	漏水防止対策の推進			○			○	○	○			
		9−2	オフィス活動における水使用量の抑制			○			○	○	○			
		9−3	節水の呼び掛け			○			○	○	○			
	10　薬品使用量の低減	10−1	高塩基度ＰＡＣの導入			○		○		○	○			
		10−2	より効果的な浄水処理の検討			○		○		○	○			
生物多様性に配慮した豊かな水と緑の保全	11　生物多様性に配慮した水道水源林保全・機能向上	11−1	水道水源林の保全			○			○		○		○	
		11−2	ボランティアなどと協働した水源地保全		○	○			○		○		○	○
		11−3	生物多様性の保全に配慮した取組			○					○		○	
	12　水道施設等における取組	12	水道施設等における水と緑の創出・保全			○			○		○		○	
多様な主体との環境コミュニケーション	13　お客さまとの連携	13−1	水道キャラバンの実施		○					○	○			○
		13−2	Tokyowater Drinking Stationによる環境配慮行動の促進						○	○	○	○		○
		13−3	環境取組情報の発信及び広聴活動							○	○			
		13−4	自治体及び地域住民との連携			○			○	○	○	○		○
	14　企業など様々な主体との連携	14−1	東京水道〜企業の森（ネーミングライツ）		○	○			○	○	○		○	○
		14−2	大学や企業等と連携した調査実験				○	○	○	○	○		○	○
		14−3	国際貢献・海外への情報発信			○					○			○
		14−4	事業者との連携	○					○	○	○			○
		14−5	政策連携団体との連携		○				○	○	○			○
		14−6	職員の環境意識の向上		○					○	○			